

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075700163		
法人名	有限会社あゆみ		
事業所名	グループホームあゆみ		
所在地	福岡県嘉穂郡桂川町大字土師1967-1		
自己評価作成日	平成25年8月21日	評価結果確定日	平成25年9月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成25年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは閑静な住宅街に位置しており自然と地域に溶け込み町内や自治会の行事にも積極的に参加しています。理念に基づき地域全体で大きな家族になれるように努めています。利用者様の意向を十分に反映し心身の許す限り積極的に散歩や買い物、月に一度は外出の機会を設け季節を肌で感じて頂いています。
健康面では看護職員が定期的に健康管理を行っており、異常があれば主治医と連携し適切な医療が受けられるように支援し出来る限り最後まで安心して暮らしていただけるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所11年目を迎えたグループホームあゆみは、玄関正面の額に装丁された理念が、日々の生活そのものになっている。呼吸器疾患で食べれなくなった入居者が、水羊羹や高カロリー食の経口摂取の支援で、ミキサー食を摂取できるまでに回復している。又、3名の看取りも支援している。入居者の心身の安全を優先し、看護職員が常時対応しており特に夜勤帯の職員の不安を受け止め、協力医療機関との円滑な連携で、家族が安心できる体制づくりをしている。また、県の介護職員派遣事業を活用して職員の研修会受講を支援したり、講習会や受験費用の補填で資格取得を支援している。さらに、レクリエーションやホーム清掃担当職員には手当を支給するなど、業績を認め合う職場づくりで、人材育成に取り組んでいる。今後、予定している同業者連絡会で、地域密着型サービスの発展の寄与も期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホームあゆみ**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の思いを反映した理念を作成、玄関に掲示し職員全員で共有している、日々の介護で実現できるよう努力している。	毎月のミーティング等で理念を確認し、笑い合える関係づくりを実践している。職員だけが満足しているのではないか、入居者は満足しているかと自問しながら、日々支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板を回して頂いている。地域の掃除や行事にもできる限り参加するようにしている。毎年地元中学校の職場体験学習の受け入れや小学校の学童保育児童の訪問もある。	地域公民館で開催されている恒例の七夕会に入居者が参加したり、ビンゴゲームの景品としてホームから不用品を寄付し、地域行事を支援している。共有空間の壁には学童保育児童から贈られた手造りの布製の額縁が日々のスナップ写真に彩りを添えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の行事に参加した際にホームの運営状況等を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しホームの活動内容、入居者の状況を報告している。行政、包括支援センター、民生委員、ご家族に参加して頂き意見やアドバイスを聞きサービスの向上に努めている	ホームの共有空間で2ヶ月毎に開催され、議事録が整備されている。ホーム行事や職員研修、入居者の状況、火災避難訓練等を報告している。全国のホーム入居者の重度化やあゆみでの現状も報告し、実施している医療連携についても話している。	会議で報告した多くの情報を、参加できない家族にも是非提供されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて状況報告を行っている、わからないことはその都度相談している。	近隣に開所したあゆみ2番館で町内の同業者が3ヶ所になり、連絡会の立ち上げを町から促されるなど、日頃から情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束についてホーム内で勉強会を行い職員の理解に努めている、日中は施錠することないため、常に利用者様の在籍確認をするようにしている。	窓から外に出られ、全職員で探した入居者もあり、家族の同意を得て窓に柵を設置している。現在は環境に慣れ、職員と信頼関係もでき、落ち着いた生活を送れているが、予防策として筆筒をクローゼットに入れ、衣類等の持ち出しを防いだり、居場所を確認するために、履物に鈴を付けることを家族に了解していただいている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルを整備し勉強会での話し合いを行い職員間で理解共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員勉強会で成年後見制度について学び、家族会ではパンフレットを配布し説明している。	家族が後見人となり制度を利用されている入居者もある。現在は日常生活自立支援事業の利用者はいないが、新規入職者もあり、事業や制度の内容やその違いについて、今後も学習する予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明し理解納得をした上で契約をして頂いている。入居後も疑問や質問事項が生じた場合は納得できるまで説明するようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の参加できる行事や家族会で意見交換を行っている、面会時には希望や意見を聞き職員で話し合い反映している。玄関には意見箱を設置している。	運営推進会議に1年毎に交代で参加してもらったり、家族会を年1回開催している。開催を予定している夏まつりには7家族が参加する予定で、家族も参加できるゲームも企画するなど、家族との交流を大切にしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や担当者会議、申し送りにて意見交換や情報の共有を行っている。	毎月のミーティングは勉強会も兼ねており、職員の気づきを共用する場になっている。夏まつりに職員が1品ずつ料理を持ち寄ったり、家族も参加できるゲームの企画が話し合われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の希望を聞きシフトを調整している、資格取得、研修参加は費用の負担や勤務の調整を行い支援している。資格を給与に反映し向上心につながるようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時は性別や年齢による制限を行っていない、又、本人の能力や働く意思を尊重し採用を行っている。職員の育児休暇の取得も実施している	民間広告や業者斡旋で新規に採用している。県の介護職員派遣事業を活用しながら、資格取得を支援したり、介護福祉士の資格取得を目指している職員には、講習会や受験費用を補填している。レクリエーションやホーム清掃担当職員には手当を支給するなど、業績を認め合う職場づくりに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内で研修を行い人権教育、啓発に取り組んでいる。	整備している接遇マニュアルを活用し、人権研修をしている。管理者は職員とともに言葉遣いに留意し、家族から聞かれても恥ずかしくない対応に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加しやすいように勤務調整を行い、参加した際は勉強会で報告書を提出し全職員で情報の共有に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人のグループホームと情報共有をしている。町内のグループホームと連絡会の立ち上げを予定している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面会し会話の中から要望、不安などに耳を傾け安心して頂けるようにしている。入所の際はできるだけ寄り添い不安を取り除けるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前のサービス利用状況や困ったことなどのこれまで経緯、今後の要望について聞きサービスに生かすよう努めている。入所後も状況を報告するようになっている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族からの思いを把握し安心、安全にホームでの生活が送れるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事を見極め日常生活で職員、他入居者と一緒に行い良い関係作りが出来るように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけご家族には面会をして頂き、その時にホームでの生活の様子を報告、相談している。ご家族との外食や外泊についても車椅子の貸し出しをして支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで住んでいた地区の敬老会に参加したり、なじみの理容院が利用できるように支援している。 年賀状や暑中見舞いが継続して送れるように支援している。	敬老会に参加したり、敬老会のプレゼントを町内の方が持参されるなど、入居前の地区での交流が継続している入居者もいる。視覚障害のある入居者の年賀状等を、職員が代読や代筆を行っている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまくいくように職員が対応しよい関係が保てるように努め、孤立しないように配慮し、お互いが係わり合いが持てるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、他施設や入院先に面会に行き今までの関係が保てるようにしている。お亡くなりになった方の初盆のお参りをさせて頂きご家族とお話しをする機会を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から意向や思いを把握するようにしている、困難な場合はこれまでの経緯やご家族の要望により職員間で協議し検討している。	センター方式を活用し、アセスメントした入居者の現在の思いや意向を書き加え、その変化も全職員で共有している。入居者の行動は何を思っているのかと考えている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接や以前利用されていたサービス事業所などからの情報により生活等を把握するようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の経過記録、申し送り、毎月の勉強会にて情報を共有している。利用者様それぞれに担当職員を配置し関わりを持つことで現状を把握できている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を使用してアセスメントを行い担当者会議や勉強会で職員全体で検討し作成している。介護計画はご家族にも説明し毎月モニタリング表を提出している。	介護計画作成担当者が作成した原案をミーティングで話し合い、介護計画を作成し、チームで取り組んでいる。湯のみや箸を自室に持ち帰る入居者は前もって片づけたり、呼吸器疾患で食べれなくなった入居者は、水羊羹や高カロリー食の経口摂取の支援で、ミキサー食を摂取できるまでに回復している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にケアの実践、気づき等を記入している。又、個別の目標に基づき評価を行い職員で話し合いながら介護計画の見直しを行い共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームの行事で外出する際は利用者様の意見を取り入れている、日常では利用者様やご家族の意向や希望の変化があった場合は対応できるように職員で検討し支援するよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の季節の行事に参加したり、町の文化祭に出展する作品作りを楽しんでいる。桂川町社会福祉協議会のご協力によりホークスの野球観戦に参加した。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前より受診されていた病院を希望されている方にはそのまま受診していただいている。病院の送迎は職員が行い、主治医に状態の報告を行っている、受診の困難な方には往診をして頂いている。	近隣の協力医療機関が主治医の入居者が多く、定期受診に職員が同行したり、緊急時は往診をお願いしている。同行した職員の情報交換や看護職員が定期的にバイタル等を主治医に報告しているので、医療連携が円滑に行われている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が定期的に健康管理を行い主治医に報告している、変化があった場合は主治医との連携し適切な受診ができるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時利用者様の情報を提供している。入院先とは情報交換を行い、頻繁に面会もしている。必要に応じて担当医やご家族と今後に向けての話し合いを行い、早期退院に向けて支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの指針を説明しご家族の同意を得ている、重度化した際は再度説明を行い、ご家族の意見を尊重し主治医と相談の上で今後の方針を決定している、看取りの際は主治医、看護職員、介護職員が連携し体制を整えご家族が安心できるよう支援している。	開所以来3名の看取りを支援している。看護職員は、入居者の心身の安全を優先し、介護職員との連絡には常時対応している。特に、夜勤帯の職員の不安を受け止めている。又、医師とも常に連携するなど、家族が安心できる体制づくりに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し勉強会を行っている必要に応じて看護師から助言や指導を受け急変時に対応できるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている、訓練の際は避難経路、利用者別の誘導方法の確認、通報訓練、消火器の操作訓練も行っている。	運営者が地元消防団の副団長として活躍している。自治会の地域防災管理に入居者の状況を報告し、理解や協力をお願いしている。避難訓練後の話し合いでは、119番の通報に咄嗟に自宅住所を言ったとの反省もあった。災害に備え、飲料水・米・缶詰等の食料品やオムツ等を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を行い人権を尊重した言葉掛け、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮した声掛けをしている、親しい仲にも礼儀と節度を重んじ対応している。	入居者の声の大きさや言葉数等に合わせた対応で、ゆったりした生活を支援している。理念の大きな家族を目指しているが、慣れ合いではない節度ある対応について、管理者は機会ある毎に話している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で意見や希望が言えるような環境や雰囲気作りを心掛け利用者様の自己決定が出来るよう対応している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースや要望に応じて対応している、個別状態に合わせ意思表示がしやすく、選択しやしやすき働きかけをしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で更衣される方には服装のアドバイスをし、出来ない方には季節感のあるものや動きやすい服を着て頂いている。なじみの理髪店がある方はお連れしている、その他の方は定期的に訪問理容を利用して頂いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に下ごしらえやつぎ分け、配膳、後片付け等できることをして頂き職員も一緒に同じ食事を取っている。茶碗と湯飲みは個人別に違うものを使用している。	全員そろって挨拶をした後、職員も同じテーブルで同じ食事をしている。入居者同士の相性や食事介助の度合いで席順を決め、小分けで誤嚥をなくしたり、ミキサー食を用意するなど、入居者に合わせた支援をしている。外出時は、入居者はお好みのメニューで外食を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し利用者様の状態に合わせて形態、量を調整している。日常生活でもなるべく体を動かすようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている、出来る方にはして頂き、出来ない方には職員が介助し清潔が保てるようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表をつけ、個別の排泄パターンを把握し声掛けや誘導を行っている、能力や状況に応じ布パンツや紙パンツを使い分け、トイレでの排泄を支援している。	水中毒と診断され、飲水量の制限で夜間排尿回数が減った入居者もある。職員の適切な誘導や声かけで、紙パンツから布パンツを使用している入居者もいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を提供しこまめな水分補給を心掛けている、状況に応じて主治医と相談し緩下剤を服用して頂いている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日順番を決めずに希望や状態に合わせて入浴して頂いている。	浴室前には順番札が設置され、毎日の入浴を支援している。職員2人体制での入浴支援もあるが、毎日入浴するのは当たり前ではと、管理者は話している。現在は入浴を拒む入居者はなく、入浴が楽しみになっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の要望や状況にあわせ休息を取って頂いている、日中はなるべく体を動かすようにして夜間の安眠につなげている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は看護職員より目的、副作用、用法について説明を受け把握している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には洗濯物たたみや料理の下ごしらえ等役割を持って頂いている、晩酌を希望される方には少量ではあるが提供している。テレビがお好きな方には希望のチャンネルに変える等生活の中で楽しみが持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけるようにしている、月に一度は季節感のある外出を楽しんで頂けるように支援している。	社会福祉協議会の活動の一環に参加し、2名の入居者がドームで野球観戦をしている。その折や季節毎の外出先で撮られた入居者の笑顔に溢れたスナップ写真が、共用空間の壁に掲示されている。レクリエーション担当職員に一任された企画を、全職員で実行している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームが行っている、行事で外出した際に個人別の財布を用意出来る方には金銭を渡し支払いをして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話をしたり、手紙を出したり、やり取りが出来るように支援している。視力の弱い方には代読、代筆をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感のある飾り付けをしたり、行事の写真を貼ったりして心地良く過ごせるようにしている。又、夏にはリビングの窓にグリーンカーテンを設置し手入れもして頂いている。	対面式の厨房前には、食卓とイスが置かれ、大型テレビの前にはソファが設置されている。各入居者のお気に入りの場所があり、円座やすべり止めのシートが敷かれている。天井は懐かしい大型扇風機がゆったりと回り、レースのカーテンから庭のグリーンカーテンが見え、寛いで過ごせる環境づくりをしている。2ヶ所のトイレの換気や防臭も管理されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに自分専用の椅子があったり、気の合った利用者様同士でソファに腰掛け話をされたり出来るだけ本人がお好きな場所で過ごせるようにしている、		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた家具を持参していただいたり、ご家族の写真や飾り居心地良く生活できるように支援している。	各居室入口には入居者の名前と顔写真が掲示されている。洗面台や大きなクローゼットが設置され、木製の床の木目が居室全体を暖かな雰囲気になっている。家族写真や誕生祝い色の紙が飾られ、居心地の良い居室になっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置している、居室にはご自分の居室が分かりやすいように写真を貼り目印にしている。		